

農学部の魅力について

先日、「もともと工学部に進学しようと考えていたが、最近食品に興味をわいてきたのでどうしようか迷っている」という相談がありました。「食品と言えば農学部がおすすめだよ」というような答えをしましたが、改めて考えてみると、「農学部」と言われてイメージがわからないかもしれません。今回はちょっと「農学部」について考えてみます。

農学部というと、即、農業＝畑仕事、と考えてしまう人もいるかもしれませんが、実際には農学部で扱われている分野は多岐にわたっており、それこそ全く土に触れない専攻の方が多いかもしれません。

直接的に農産物の生産に関わる分野としては、**作物栽培や品種改良、バイオテクノロジー関連**があります。最近では当たり前になりつつある**遺伝子組み換え**などについて研究している研究室もあります。また、**畜産・水産**など動物を扱う分野もあり、**獣医学部**と連携している大学もあります。また、トラクターなどの**農業機械**の研究も重要です。

もう一つは口に入るものとしての農産物研究です。**食品関連**はここになります。**食品加工**や**栄養、食の安全性**などの研究に加え、**製薬や化粧品分野**へ応用する研究も行われています。

また別の観点では、**農場や山林、環境**に関する分野もあります。農地整備だけでなく、**土壌や森林の研究**、また**土木関連、治水・利水**なども、農学部で扱う分野です。もちろん、**気候**をはじめとした**環境**に関する研究も重要です。近年では**人工衛星やドローン**を使って効率よく土壌改良をするといった技術開発もテレビ等で紹介されていますね。

さらに、**農業経済・経営学**も農学部では重要な研究分野です。考えてみれば、農業は典型的な企業の経営ですね。原材料費、設備投資、人件費などと、売り上げとの関係から収益を求めるのは経営の基本。農産物は鮮度が重要なため、効率的な**出荷や物流**の研究も欠かせません。また、農産物は輸出入も多いので、**国際商取引・貿易**の研究もあります。さらに、商取引やブランド特許、安全性、産地偽装問題など、**法制度**に関する研究も重要な分野です。

このように、「農学」という切り口でちょっと考えてみただけでもこれだけの要素が入っています。生物・化学・地学といった理系分野を基礎としつつ、経済や文化など文系的な視点も欠かせません。

また、農学部は、**実験や実習、演習**が非常に多いのも特徴です。基礎研究も重要ですが、やはり農学は実践が重要な学問です。農業は当然ながらその地域の気候・環境に影響されますし、さらに、大学と地元の農業・林業・水産業とのかかわりも非常に大きく、地元の人たちとの共同研究や、共同作業もよく見られます。

特に国公立大学であれば、信じられないぐらいの広さの**農場・演習林**、場合によっては**水産試験場**を持っています。私立大学でも歴史ある大学には農場がありますが、やはり授業料・施設料から考えると、コスパは抜群です。

以下、簡単に農学部の扱っている分野を10分野に整理してみました。あくまでも一つの参考です。

分野名	主な内容・特徴
① 作物・園芸学	稲・小麦・果樹・野菜などの育種・栽培技術、高品質・高収量の農作物生産
② 畜産・動物科学	牛・豚・鶏などの家畜の飼育・繁殖・健康管理、畜産物(肉・乳・卵)生産と福祉
③ 森林科学・緑地環境学	森林管理、林業、木材資源、緑地計画、生物多様性保全
④ 水産学	魚介類の養殖・資源管理、水域生態系の保全、水産加工技術
⑤ 農業工学・生物環境工学	農業機械、水資源管理、農地整備、環境調和型技術の設計
⑥ 応用生命科学・バイオ学	微生物・遺伝子・細胞などの研究、バイオテクノロジー、農業への応用
⑦ 食品科学・栄養学	食品の成分・加工・保存・機能性・安全性、食の安心・健康との関わり
⑧ 農業経済・経営学	農業政策、農業経営、食料流通、農村振興、フードシステム
⑨ 国際農学・開発学	発展途上国の農業支援、国際協力、グローバルな食料・環境問題
⑩ 農業環境科学・保全学	土壌・水質・生物の環境影響評価、持続可能な農業と環境保全、地球温暖化

農学部から見た大学選びについて

さて、農学部には興味を持ったとして、ではどの大学がいいのか、これも迷うところです。

まず、当たり前と言えば当たり前なのですが、**東京大学・京都大学**であれば、何でもできます。とはいえ、やはり研究志向が強いと言えるでしょう。**東北大学は資源系統、名古屋大学は企業連携、九州大学はアジア諸地域との連携**が強いというイメージです。**北海道大学は酪農・寒冷地農業**のトップ。なぜか大阪大学には農学部がありません。その代わりと言ってはなんですが、**大阪公立大学の農学部は歴史と伝統があり、食品系統に強く、獣医学部や工学部との連携もあります**。関西でいうと、**神戸大学の農学部も広い農場を持つとともに、食品・バイオ系が強い**ので、京大の次の農学といえば神戸大、というイメージです。一方、関東の農学系と言えば、**東京農工大学**は外せません。以前にも紹介したので今回は詳しく説明しませんが、**150年近い歴史と伝統のある農学部の筆頭**と言ってよいでしょう。

もちろん、**静岡大学**にも農学部があり、生物資源科学科、応用生命科学科の2つの学科があります。作物だと**茶・柑橘系に強く**、また県内に広大な実習林を持っており、環境系も強いです。バイオテクノロジー関係もかなり充実しています。**信州大学の農学部も雄大な自然の中にあり、やはり森林系(木材・環境・キノコなど)**がかなり強いです。

そして、「農学部」と銘打っていない農学系の学部がこれまた多くあります。

岐阜大学の応用生物科学部は、**実質的に農学部**です。農学部より少し研究分野を広げ、生命科学と環境学に広がっているイメージです。また、獣医学科があるので、動物系の研究にも強いです。

三重大学の生物資源学部と、**高知大学の農林海洋科学部**は、どちらも**農学部と水産学部**が合体しているような学部です。まさに**農林水産を扱う学部**で、山のとっぺんから海の底までがフィールドとなっています。どちらの学部にも**実習船**があり、たぶん農学系のコースでも、1度は乗船する機会があるという話を聞きました(これについては絶対とは言えませんので、各大学にきいてください)。いわゆる陸の農学部とは違う魅力があります。

山梨大学には**生命環境学部**があります。こちらは工学部から枝分かれした比較的新しい農学系の学部で、**地域柄果樹、さらにワインの研究**がよく知られています。**京都府立大学の農学食科学部**は2024年に再編新設されました。農学系の学科だけでなく、文化系統の**和食文化科学科**が再編により組み込まれているのが面白いですね。

やはり農学部は工学部以上に地域の環境や文化の影響が大きく、ここにしかない、ここならではの要素が大きいと思います。例えば**熱帯の植物**について研究するならばやはり**琉球大学の農学部**ですし、**砂漠の緑地化**なら**鳥取大学の農学部**がベストでしょう。ほかにもたくさん農学部があり、それぞれが特徴的な研究をしています。

農産物だけでなく、生物・化学に興味がある人は、一度農学部も視野に入れてみると、選択の幅が広がりますよ。

大阪大学の文系学部の研究(おまけみたいになってすみません)

ちょっと農学部でかなりボリュームをとってしまい、文系の人には興味薄い内容になってしまったのと、大阪大学には農学部がない、という話だけだと大阪大学に申し訳ないので、大阪大学の文系学部の話もお茶を濁します。

大阪大学の文系学部は、**文学部・人間科学部・外国語学部・法学部・経済学部**があります。**法学部・経済学部**は十分レベルの高い学部ではありますが、迷うところはないと思うので、ここは省略します。

まず、**外国語学部**についてです。大阪大学の外国語学部はもともと**大阪外国語大学**でした。2007年に大阪大学に統合しました。**国立総合大学唯一の外国語学部**であり、実質的に**東京外国語大**との双壁と言えるでしょう。注意しておきたいのが**二次試験に世界史が必須(日本史では受験できない)**というところです。ちなみに同系統の**神戸市外国語大学**の二次試験も、**国語・世界史・政経の選択**となり、**日本史の選択肢はありません**。これはかなり意識的だと思います。**人間科学部**も他大学ではあまり聞かない学部ですね。中身を見てみると、**心理学・社会学・教育学系**ですね。これまた大阪大学には教育学部がないのですが、教育学ならここになるでしょう。サルの研究を通じて人間の研究をする研究室もあります。メディア論や、サブカルチャー研究、ジェンダー研究もここです。

文学部は伝統的な文学・哲学・歴史・芸術を対象とした学部です。古きよき学問に強く、例えば哲学系の専修だけで、哲学・思想文化学、倫理学、中国哲学、インド哲学と4つも専修もあり、かなり充実しています。なお、大阪大学の**歴史学系統(阪大史学)**も、かなりの伝統と独自性を持っているところですので、興味がある人はぜひ。